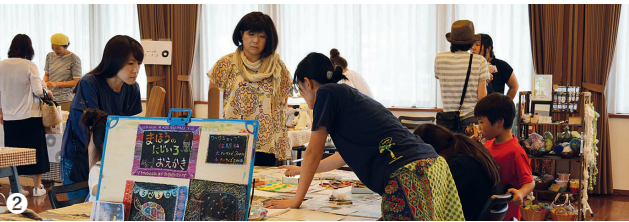


「地域おこし協力隊が見つけた」

しらたかの鉄人! 達人!



①和浩さんが生演奏を聴きたいと願った「ゴンチチ」のゴンザレス三上さん。毎年SSRMというユニットで演奏してくれる ②子どもが楽しめるワークショップも開かれる。親子連れや若い来場者が多いのも山ぎわの特徴 ③遊んでのどが潤いたらカフェへ。癒しのコーヒータイム



「山ぎわ市場と音楽会」

横山 和浩さん (鮎貝・47歳)

「挑戦する人に光を当てたい」

手作りの雑貨や料理が並ぶマーケットと、CDでは聞けない音の洪水のようなライブを一日で楽しめるイベント「山ぎわ市場と音楽会」(以降、山ぎわと呼ぶ)をご存知でしょうか。今回は、その代表である和浩さんをご紹介します。

山ぎわの目標について、和浩さんは「私たちの地域でがんばっている人に光を当て、その商品や活動、取組みに気軽に触れ合えるような場にした」と考えている。魅力ある活動や温もりある商品を知ること、自身が出店者となることもできるので、

交流も含めて大いに楽しんでもらえたらうれしい」と話します。

さらに「5年継続で開催できたが、この挑戦が成功しても失敗しても、次の世代の礎となれば良いと思う。人が輝ける地域を皆さんと一緒に作りたい」と、未来へつながるイベントを作り出す熱意が伝わります。

白鷹町には、すばらしい作り手や新たに挑戦を始める方がいて、そしてそれを応援する人がいます。自分は何に挑戦できるか、皆さんも想像してみてくださいいかがでしょうか。

昨年、私も山ぎわに参加して若い人を対象に仏像を間近に拝観できるツアーを開催しました。一人で仏像を移送したことや、お寺でお檀家さん以外の人に仏像を解説したことは初めての経験で緊張の連続でしたが、皆さんが楽しんでくれて自信ができました。



地域おこし協力隊
石井 紀子さん

▼平昌(ピョンチャン)オリンピックでの日本代表選手の活躍や、東京マラソンでの日本新記録など、2月は東京オリンピックへの弾みとなるうれしいニュースがありました。約2年後、感動の瞬間をぜひ現地で味わいたいです。

▼「SHIRATAKA RED」が、ついに商品としてカタチになりました。しらたかの紅(あか)に、それぞれの事業所の色を組み合わせた商品は、どれもすばらしいものばかりです。商品はすべて各事業所で購入することができます。自家用に、そして親戚やお世話になっている方への贈り物として、ぜひ一度手に取ってみてください。町が誇る新たなブランドを、皆さんの手で発信していきます。

▼今月号の表紙は、このたび作成された紅花絵本のイラストを使わせていただきました。もし、本物の絵本と間違えた方がありましたら、大変申し訳ありません。「広報しらたか」も、皆さんに手に取って開いていただきたいの思いによるもので、決して手を抜いたわけではありませんので、ご理解ください。(てづか)

